

## 平成29年度公共用水域の水質測定結果について

平成30年10月31日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて策定した「平成29年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

- 1 調査期間 平成29年4月～平成30年3月
- 2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省、独立行政法人水資源機構
- 3 測定項目及び調査地点

区分		生活環境項目	健康項目	ダイキシ類	要監視項目	その他
項目数		12	27	1	29	15
地点数	河川	67	39	8	23	32
	湖沼	8	6	2	1	8
	海域	129	22	4	5	25

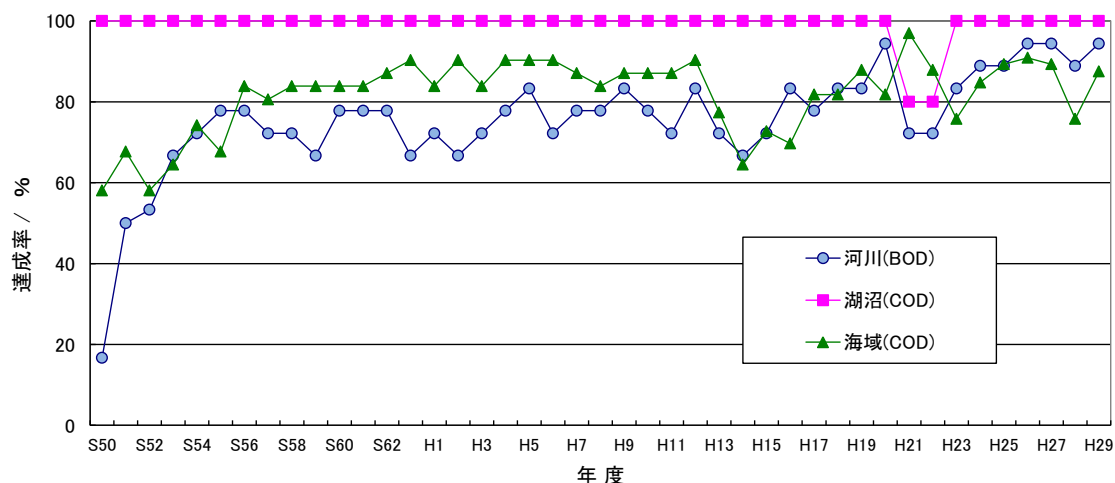
## 4 調査結果の概要等

### (1) 生活環境項目

ア 環境基準点における環境基準の達成状況は、河川(BOD)が94%、湖沼(COD)が100%、海域(COD)が82%であり、全体では88%であった。

BOD又はCODの環境基準の達成状況

区分	平成29年度		平成28年度	
	達成率	達成水域数／調査水域数	達成率	達成水域数／調査水域数
河川	94%	17/18	89%	16/18
湖沼	100%	5 / 5	100%	5 / 5
海域	82%	27/33	76%	25/33
合計	88%	49/56	82%	46/56



環境基準達成率の経年変化 (BOD又はCOD)

○未達成水域の状況等

区分		平成29年度	平成28年度
河川	AA類型	石手川(乙)	石手川(乙)、広見川(甲)
	A類型	—	—
海域	A類型	西条海域(丙)、東予海域(丙)、伊予灘一般、宇和海一般、燧灘東部	伊予三島・土居海域、新居浜海域(丙)、西条海域(丙)、東予海域(丙)、宇和海一般、燧灘東部
	B類型	三島・川之江地先(3)	三島・川之江地先(4)、宇和島港

イ 全窒素及び全りん的环境基準の達成状況(海域のみ)

項目	平成29年度	平成28年度
全窒素	100% (5水域)	100% (5水域)
全りん	100% (5水域)	100% (5水域)

(2) 健康項目

調査を実施した67地点(河川39地点、湖沼6地点、海域22地点)全てにおいて、環境基準を達成した(平成28年度も達成)。

健康項目の調査結果概要

(単位: mg/L)

項目	調査結果	基準値
カドミウム	<0.001	0.003以下
全アン	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	0.01以下
六価クロム	<0.02	0.05以下
砒素	<0.001~0.007	0.01以下
総水銀	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.002	0.01以下
テトラクロロエチレン	<0.001	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0005	0.002以下
チナム	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	0.01以下
セレン	<0.002	0.01以下

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02～4.9	10以下
ふっ素	<0.08～0.34	0.8以下
ほう素	<0.02～0.1	1以下
1,4-ジクロロベンゼン	<0.005	0.05以下

### (3) ダイオキシン類

調査を実施した14地点（河川8地点、湖沼2地点、海域4地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成28年度も達成）。

ダイオキシン類の調査結果概要

区分	水質 (pg-TEQ/L)			底質 (pg-TEQ/g)		
	地点数	調査結果	基準値	地点数	調査結果	基準値
河川	8	0.050～0.78	1以下	7	0.10～25	150以下
湖沼	2	0.067		2	2.0～2.3	
海域	4	0.013～0.059		4	0.28～2.7	

### (4) 要監視項目

調査を実施した29地点（河川23地点、湖沼1地点、海域5地点）において、2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。

（平成28年度も2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過）

要監視項目指針値超過地点の調査結果概要

(単位：mg/L)

区分	超過地点	項目	調査結果 (年平均値)	指針値	要因等
河川	加茂川水域St-7	アンチモン	0.12	0.02	地質由来
	砥部川水域St-2		0.039		
海域	松山海域St-2	ウラン	0.0026	0.002	海水由来

### (5) その他項目

内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン物質）については、調査を実施した5地点（河川1地点、海域4地点）全てにおいて、検出されなかった（平成28年度も5地点で検出されず）。

内分泌攪乱化学物質の調査結果概要

(単位：μg/L)

区分	調査地点数	4-オクチルフェノール	ビスフェノールA	DDT
河川	1	N.D.	N.D.	N.D.
海域	4	N.D.	N.D.	N.D.
定量下限値	—	0.01	0.01	0.05

注) N.D.：検出されず

## 平成29年度地下水の水質測定結果について

平成30年10月31日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて作成した「平成29年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

1 調査期間 平成29年4月～平成30年3月

2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省

### 3 調査結果の概要等

#### (1) 継続監視調査（定期モニタリング調査）

##### ア 調査地点及び測定項目

調査機関	地点数	環境基準項目	要監視項目
愛媛県	53	4 <sup>※1</sup>	—
松山市	10	5 <sup>※2</sup>	—
国土交通省	6	13 <sup>※3</sup>	5 <sup>※4</sup>

※1 砒素、1,1,1-トリクロロエタン、テトラクロロエチレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※2 1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※3 ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、クロロエチレン（別名：塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）、1,4-ジメチルベンゼン

※4 クロロホルム、1,2-ジクロロプロペン、p-ジクロロベンゼン、トルエン、キシレン

##### イ 調査結果（基準超過地点）

##### ○ 環境基準項目

調査を実施した69地点において、テトラクロロエチレンが1地点、砒素が2地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が15地点（うち1地点は、概況調査と重複）で、環境基準を超過した。

（平成28年度は、テトラクロロエチレンが1地点、砒素が2地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が14地点で超過）

##### ・テトラクロロエチレン

（単位：mg/L）

調査機関	調査地点	平成29年度	平成28年度	環境基準
松山市	松山市生石町	0.026	0.033	0.01 以下

・ 砒素

(単位：mg/L)

調査機関	調査地点	平成29年度	平成28年度	環境基準
愛媛県	今治市関前小大下	0.014	0.012	0.01 以下
	宇和島市伊吹町	0.018	0.014	

・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

(単位：mg/L)

調査機関	調査地点	原因	調査結果		環境基準
			平成29年度	平成28年度	
愛媛県	今治市宮窪町友浦	施肥	14	14	10 以下
	今治市大三島町野々江	施肥、生活排水	11	12	
	今治市上浦町井口	施肥	11	11	
	今治市上浦町瀬戸	施肥	17	12	
	今治市伯方町叶浦	施肥	24	24	
	今治市伯方町木浦	施肥	13	8.5	
	越智郡上島町生名	施肥	19	18	
	越智郡上島町岩城	施肥	13	14	
	伊予郡砥部町川井	施肥	19	24	
	八幡浜市保内町川之石	施肥	11	11	
	北宇和郡鬼北町大字永野市	施肥	11	12	
松山市	松山市山西町	施肥	16	19	
	松山市吉藤四丁目	施肥、生活排水	23	25	
	松山市上怒和	施肥	21	8.4	
	松山市由良	施肥	14	15	

注) 松山市由良は、概況調査と重複地点。

○ 要監視項目

調査を実施した6地点において、指針値の超過はなかった。

(2) 概況調査

ア 調査地点及び測定項目

調査機関	地点数	環境基準項目	要監視項目
愛媛県	10	7※	—
松山市	11	28	24

※ 砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、クロロフェノ（別名：塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）、1,2-ジクロロフェノ、1,4-ジクロロベンゼン

イ 調査結果（基準超過地点）

○ 環境基準項目

調査を実施した21地点のうち、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が1地点（継続監視調査と重複地点）で環境基準を超過した。

（平成28年度は、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が3地点で超過）

・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

(単位：mg/L)

調査機関	調査地点	平成29年度	環境基準
松山市	松山市由良	14	10 以下

注) 継続監視調査と重複地点。

(3) 継続監視の終了に係る汚染井戸周辺地区調査

ア 調査地点及び測定項目

(単位：mg/L)

調査機関	調査地点	地点数	測定項目	平成29年度	環境基準
愛媛県	今治市菊間町浜	4	テトラクロエチレン	0.0005未満	0.01 以下
	伊予市灘町	4	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2.0～3.4	10 以下

注) 地点数は、継続監視調査（当初汚染）の井戸含む。

イ 調査結果

○ 環境基準項目

調査を実施した各4地点において、ともに環境基準を達成した。

(平成28年度は、3地区(各3地点：硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素)で達成)

(4) ダイオキシン類調査

ア 調査地点

(単位：pg-TEQ/L)

調査機関	調査地点	平成29年度	環境基準
松山市	松山市安城寺町	0.013	1 以下

イ 調査結果

調査を実施した地点において、環境基準を達成した。

(平成28年度も全1地点で達成)